創刊号（季刊）
平成15年7月25日発行

発　行／佐野れいじを育てる会
編集・発行人／後藤　攻
〒164-0012　中野区本町3-3-4
TEL.5354-8172　　FAX.5302-0892
E-male:rsano@df7.so-net.ne.jp
年間購読料／400円

なかの夢とぴあ

中野
定例議会

区政改革は民間企業を参考に！

佐野れいじ議員が一般質問

丸の内線「新中野駅」「中野新橋駅」「中野富士見町駅」の バリアフリー化早期実現を迫る

佐野れいじ議員

6月27日に開会した第2回中野定例区議会は14日間の会期を終え7月10日に閉会したが、7月1日の本会議でTOKYO自民党中野区議団の佐野れいじ議員が一般質問に立ち、歳出配分の見直しなどを質した。

（2面に関連記事）

佐野議員は、①歳出配分の見直しと職員給与体系、②中野区経営改革指針と新トータルシステム（評価・給与・教育・移動）の確立、③ケーブルテレビ事業における地域情報格差是正、④神田川周辺の治水対策、⑤地下鉄のバリアフリー化の5項目について質問した。

冒頭、同議員は「区政の要諦は区民生活の安心、安全、安定にある。自分は長い間、サラリーマンとして競争原理の荒波に揉まれてきたが、コスト意識、説明責任の徹底、顧客満足度の向上等、どれ一つをとっても民間企業では死活問題に繋がりかねない。区民の目線に立ち、住み良い中野を作るためには、行政も民間も変わりはない。民間企業の良い点はすべて取り入れて区政改革を図るべきだ」と述べた。

これに対し田中区長は全く同感だ、民間のマネージメントを見習い、行政の価値を高める作業に取り組んで行きたいと答えた。

年功序列を廃止、成果賃金へ

また佐野議員は区予算の歳出配分にふれ、東京23区平均と比較して、中野区は人件費率が高く、建設費などの投資的経費率が低い点を指摘、歳出配分の見直しを迫った。

職員の給与体系については、年功序列を廃して成果賃金の確立を求めた。

神田川の治水では、中野新橋より上流の振幅工事の早期実現を要望、また中野新橋、中野富士見町、新中野各駅のエスカレーター・エレベーター化を要請した。

児童虐待と共生社会

参議院議員
小野清子

プロフィール
東京教育大卒　東京五輪メダリスト　参議院議員（3期）
参議院共生社会に関する調査会会長　JOC理事　軍恩連盟全国連合会特別顧問など

参議院の共生社会に関する調査会は平成十年に設置されました。

私が会長に就任したのは平成十三年ですが、一年目の昨年は大きな社会問題となり緊急の対応が求められている児童虐待について調査を行い、児童虐待の早期発見・早期対応、被虐待児への支援体制確立など五項目の提言をまとめました。

一般に児童虐待は、①殴る、蹴るなどの身体的虐待、②性的虐待、③食べ物を与えない、衣服を替えないなどのネグレクト、④無視あるいは酷い言葉でなじるなどの心理的虐待に分けられます。そして、母親の虐待の方が父親より多いことに事態の深刻さがうかがえます。

私も国政に参画するかたわらJOCの理事を勤める親の所有物と見なしたことはありませんでした。まだ幼く、保護を必要とする身であっても、一人の人格を持った人間であることには心等々、母親のストレスがたまる一方であることも事実です――。

二年目となる今年は、社会福祉基礎構造改革の大きな潮流の中で推進されている、障害者の自立と社会参加について提言をまとめる一方、児童虐待についても再度、調査を行い、育児における親の孤立化の防止や、地域における虐待防止のためのネットワーク構築など八項目の決議を行いました。

また平成十三年に本調査会が提出し成立した「配偶者暴力防止法」についても、その見直し作業を鋭意行っています。

このように参議院共生社会調査会は、児童虐待、障害者の自立と社会参加、配偶者間の問題といった私たちの生活の場である地域や家庭に密着した問題について調査し、これからもさまざまな人々が共生できる社会の実現をめざして行くつもりです。